



謹賀新年

令和二年  
庚子七赤金星

有宵会だより

第97号  
発行所  
特定非営利活動法人  
岳易館・有宵会  
編集 広報部  
松戸市新松戸1-64

新年のご挨拶

福田 有宵



令和二年の新年を迎え  
慎んでご祝詞を申し上げます。

NPO法人・岳易館・  
有宵会会員の方々を始め  
各教室の皆様には、本年  
のご多幸とご健勝をお祈  
り申し上げます。

さて、昨年の五月に令  
和と改元されてから半年  
余、新年の幕から本格的  
な時代といえるでしょう。  
今年の干支は、庚子、  
九星は七赤金星ですが、  
どのような一年になるで  
しょうか。

まず十二支の始まりの  
子年になります。  
干支の起源は諸説があ

り、干支は年を表わすも  
のではなく、元来「日」  
を示すもの。「日」を表  
わした殷（紀元前十世紀）  
「年」と使われたのは、  
戦国時代（前三五〇年頃）  
が定説です。

わが国には奈良朝以前  
に伝来、正倉院の御物に  
十二支刻彫石板があり、  
子は鼠、丑は牛と記され  
ているとのこと。

そこで初めに日を表わ  
した干支は、次に年、月  
を表わし、最後に時を表  
わしていく順序です。

古くから時のところで  
方位と結びつけて用いて  
いました。

十二支の語源は、子を  
鼠としたのは学者・研究  
者の意見でも不可解との  
こと。十二支獣の内容と  
根拠などがわかると面白  
い、大発見となりそう。

ネズミのエピソードを  
かき集めてみると、鼠は  
大黒天のお使いといわれ  
ます。神話の時代に大国  
主命が、須佐之男命の国  
をたずねるとき、危機を

脱出したことで大国主命  
が七福神の「大黒天」を  
後世、名乗るようになった  
ようです。

古事記の上巻に、大国  
主命が須佐之男命の娘、  
須勢理毘売に一目惚れし  
て結婚したが許されず、  
須佐之男命から計略にあ  
い、大野の中に射入れた  
鳴鏑矢（なりかぶらや）  
を探しにいくが、四方か  
ら火を付けられ焼き殺さ  
れそうになるが、そこに  
鼠があらわれ「内はほら  
ほら外はすぶすぶ」と告  
げた所を踏むと穴があい  
て身が隠れて無事であっ  
た。大国主命と大黒天の  
習合により鼠が神使となっ  
たわけだ。

地方によつては「ヨメ  
サマ」とか「アネサマ」  
と鼠を褒めているのはど  
うも忌言葉なのでしょう。  
また、正月に「鼠の年  
取」といい、餅を供えて  
食べ方によつてその年の  
豊凶を占う民族も伝わっ  
ています。

鼠浄土なる言葉があり  
鼠は地下の世界に沢山の  
財宝をもっているのだ、  
人のよい老爺は歓待され  
たが、隣の欲張りの老  
爺が真似をして失敗した  
話があるとのこと。昔話

の花咲爺譚と同じ共通  
した物語があります。

歴史の奥へ迷い込んで  
しまったところで、「鼠  
返し」です。昭和二十二  
年登呂遺跡の大発掘で、  
各種の出土品の農具や什  
器類が湿田下から出てき  
た物の中で、用途不明の  
木器が多数あったことに  
注目、後年これが鼠返し  
の道具であったことで、  
この位置の建物は穀倉で  
あったことがわかります。

鼠害を逃れる工夫をし  
ているなどたいしたもの。  
奈良時代の正倉院文書  
中に「鼠走」とあるのは  
建物上部の横梁（よこは  
り）に付けたことを記し  
ているのです。

近世の武家や町人の土  
蔵に鼠返しが使用された  
ことが「守貞漫稿」もり  
さだまんこう（江戸後期  
の風俗誌）に網戸などで  
塞がない出入口に高さ二・  
三尺の板を戸口下の横に  
おく、倉中鼠を入れざる  
の備えという。

現代版では夜になると  
天井裏を走り騒いでいる  
と嘆くが、今様は洗い熊  
の被害があるようですね。  
大黒天論考としては次  
の内容を述べてみます。  
大黒天はインドの神で

原名は魔訶迦羅、自在天  
の化身で黒色忿怒形の天  
部に属するが二つの系統  
があり、一つは暗黒の神  
として荒神となり、二つ  
は厨房の柱や倉庫に祭ら  
れるシルシとする。

わが国へ伝来は、最澄  
で中国から台所の守護神  
として迎えたが、中世以  
後は平和な福神となる。  
大国主との習合はいつ  
頃からか不明であるが、  
大国主と大黒天とは音が  
共通し、背中に袋を持っ  
ている姿が同じです。

大黒天は頭に帽子をか  
ぶり、両足を俵の上にの  
せ、左手に囊（大袋）

右手に槌を持つている姿  
は、七福神が定まった室  
町以後という。古い時代  
は袋だけの姿像です。

大宰府に観世音寺に、  
平安時代の作品で重要文  
化財、祭日は甲子（きの  
えね）で、子待（ねまち）  
と称し、十一月の子の月  
（陰暦）の甲子が大祭と  
されています。この日

は玄米飯に大豆を炊いた  
ものと二股大根を神饌に  
供する習わしという。  
大黒天は厨房の神様なの  
で、転じて和尚の妻君を  
大黒と呼ぶようになり福  
来たるという意です。

鼠を奉祀した社は、近江日枝神社の末社に鼠社があること。

関東方面には、子の神子の権現は子を祀った社寺が関わっているようですが、そのもとは薬師十二神将の、毘羯羅大将（本地釈迦如来）を本尊としております。

絵巻物に描かれた器物には、十二支の中でも鼠は稀で数例のみです。

鎌倉時代の春日権現験記に、霊現を表わす図、また神憑りした大明神の姿に、一匹の鼠走り図があるなど、十二支のななしのページです。

軽いところの諺では

○鼠も虎らの如し

○鼠が塩をなめる

○頭の黒い鼠

○窮鼠猫を噛む

○大山鳴動して一鼠でず

○内弁慶の外鼠

○鼠が居なくなると火事になる

○用いれば虎となり用いらざれば鼠となる

○山が産気づいて鼠一匹を生む

○明日のことを言えば天井で鼠が笑う

○鼠捕らぬ猫

○鼠算に鼠講

子を鼠としたのは、人

間が身近かな位置にいたので選ばれたと、南極以外にはどこにも生息。

日中で共通するのは、ネズミの嫁入り、旧暦の春節には家々で壁に貼って飾ることで祝う。多産多福、協調性を学ぶ。

子（し）と読めば、学徳のある人物に対する敬称です。子（こ）と言うは親がものを言う。あれこれと気儘な探訪の打ち止めです。

福田 有宵

### 九星と易断による

#### 二月・三月の運勢

気学では寅の二月

二月四日（立春）節入り

破

|   |   |   |
|---|---|---|
| 天 | 道 |   |
| 7 | 3 | 5 |
| 6 | 8 | 1 |
| 2 | 4 | 9 |

生 気

ア

気学では卯の三月

三月五日（啓蟄）節入り

破ア

|   |   |   |
|---|---|---|
| 天 | 道 |   |
| 6 | 2 | 4 |
| 5 | 7 | 9 |
| 1 | 3 | 8 |

生 気

#### 一白水星の人の運勢

二月筮―沢風大過の初六  
三月筮―水風井の六四

立春になり忙しさが落着くので安心。これから大きな方針あり、内密の話は続く。仕事は焦らず待つ我慢し交渉埒あかず。出費や愛情不足を補う。口腔、食道、筋肉疲れ。

三月は公私に忙しく気遣いが多い。平穩さを維持するのが賢い。仕事は協力を得て下旬順調。強

#### 二黒土星の人の運勢

二月筮―山風蠱の六五  
三月筮―山雷頤の六二

二月は安全方針で進める無理をしない。仕事はマンネリを避ける、難問は人の知恵を借りること。毎日のペースを改めてみて納得する。安請け合い禁物、損得は絡まず無事。足腰、鼻と喉、過敏症。

三月は頭脳すっきり慎重な判断、変則的問題は不利を招くので再検討。個性を生かす喜び、文書と金銭は自重。商談不調と予定の変更に対処。

視力、歯、熱症、節々。

#### 三碧木星の人の運勢

二月筮―雷水解の六五  
三月筮―雷水解の六五

二月の見通しは良いので諸事進める。能力を出しければ好結果。相談や依頼事はイエス・ノーを考えてから。情報過多でも正攻法でいく。商談は利に走らず。新投資の企画は待機、家族協調が吉。肩腰、頭痛、動悸、安眠。

三月は先手を取るより後から行く。運氣はユツクリ、公私の面で手間がかかる。急ぎの仕事は骨を折る、復縁や復調あり。気血疲れ、冷えと足腰。

#### 四緑木星の人の運勢

二月筮―水雷屯の六四  
三月筮―火風鼎の九二

二月運は休息ペース、前月二カ月分の整理。日常で小用が溜まるが落着する。職場もわが家も相手に動かされる。不満は抑える。金銭は不明金に用心。長老や高年者大切。背骨、筋肉、気重と過慮。

三月になると春の気配に快い。地味に努力してこそ下旬の好機を得る。仕事は未熟さ協調骨折り本業を軸に。情報遅れや

聲掛け避けて金銭は固く。冷え風邪、頭重し胃疲れ。

#### 五黄土星の人の運勢

二月筮―天火同人の九四  
三月筮―天風姤の上九

二月は一人ではなく周囲と共に動く。際立つことなく庶民派を貫く。公用は早く処理、対人面で厄介事が生じやすい。知らない振りも時には良い金運逃げ腰、旅行話あり。疲労、筋肉、食道、気管。

三月は心機一転する気分、日常のペースを変えてみる。予期しない問題臨機応変に。下旬は好調押していく。結果よりも着手実践に価値。気苦労膝と腓、視力、血糖値。

#### 六白金星の人の運勢

二月筮―兌為沢の上六  
三月筮―地天泰の九三

二月は段々と忙しく、なりそう。公私に自信と強気が出るとき。方針は復調と挽回策あり。仕上げは上手な手から水漏れる。中旬の安請け合いと失言注意。節約一番。胃と胆、関節、下痢用心。

三月は安泰の中に改革の兆しで意欲湧く。自立転職は家族の反対あり。仕事は対話不足で初歩的

ミス、手配モレに用心。四月の予定より三月確認のど風邪、食道、腸満。

#### 七赤金星の人の運勢

二月筮―天地否の六二  
三月筮―巽為風の六四

二月は爽やかな交際を心がける。新旧入り混ざる賑やかさ。新規展開が多く面白い。若い人には成長、高年者に家庭の整理と団欒の味わい。仕事は信用第一、金運動く。風邪、足腰、歯と食事。

三月の運氣は少し落着かない。些事にとらわれやすい。三者が寄れば一人を失う、人に難しさがあり交際慎重に。仕事は美味あり苦味を選んで吉。気疲れ、頭痛血圧、睡眠。

#### 八白土星の人の運勢

二月筮―沢火革の九四  
三月筮―地山謙の上六

二月は何かと用事が多く忙しくなりそう。毎日の生活が単調なので新鮮さを出す。状況に合わせて良いが軽率なことはいない。仕事は慎重に家庭は憩い。交際は小さく。体調無事、持病に用心。

三月は活躍の場を得て順調運。荷の重い部分は省き気楽さが吉。仕事は

現状維持で十分、私用は丁寧処理、家族愛を大事に喜び二つを待つ。栄養食事に安眠で良好。

## 九紫火星の人の運勢

二月筮―雷天大壮の初九  
三月筮―地山謙の初六

二月は予定や方針など進める、情報が多く参考と交友を楽しく。公私の用件は早目に処理、仕事では実力発揮、責任を果たすなど実績示す。平穏さと人情に胸打たれる。歯の具合、胃と肝を守る。

三月はあれこれ雑事多い。急用には乗らず慎重に対処。慣れた生活で安心無事を、軽率な言葉と誤解に注意。何事にも謙虚さと知恵を使つて賢く。足腰、頭痛、真剣、過労。

福田 有宵

## 十一月例会報告

八川林加

十一月三十日（土）勤労福祉会館ブルミエにおいて、NPO法人岳易館・有宵会定期例会を開催。十一月度は、第一部に有宵会所属の三名の先生方による実占談のご講演と第二部では、福田有宵先

生による「令和元年を振り返って」のご講演をいただきました。紙面上の都合により、主な内容に絞ってのご紹介となりますが何卒ご容赦ください



―第一部―  
実占報告  
東京駅での鑑定例  
杉本侑穂先生



現在、東京駅で鑑定を行っております。今回は、二つの占例のご紹介です。  
一、第二の人生へのステップ  
二、筮前の審事での気づき

十一月三十日（土）勤労福祉会館ブルミエにおいて、NPO法人岳易館・有宵会定期例会を開催。十一月度は、第一部に有宵会所属の三名の先生方による実占談のご講演と第二部では、福田有宵先

待つているだけだよ」と暗い表情でご相談が始まりました。ご趣味の有無をお聞きしたところ、「若いころは、スキーをやっていた、世界中を飛び回り、とても楽しかった。だけど、もう六十三歳。つい最近までは、会社で部長職までやっていたが、今では一年契約の契約社員。給料もだいぶ下がってしまった。来年もこのままの状態が続くのか」とのこと。ご相談者は、現状にご不満はあるものの、これまで、公私で様々な経験を経験されてきた様子です。そこで、第二の人生として、女性とお話をするなど、出会いの楽しみをみつければどうかとご提案。しかし「以前に結婚をして、浮気をしてしまい、それが元で離婚も経験した」と、男性はこれまでの過去についても少しずつ話し始めました。話題を変え、自分（杉本先生）が趣味でやっている作詞やカラオケの話題を例にしながら、あるカルチャーセンターでのエピソードをご紹介します。

で背の高い大きな松を下から眺めていた時のことです。その松は一定方向に傾いて伸びている特徴がありました。その団体の講師は、「なぜ同じ方向に枝が伸びているか」について受講者に質問をしていました。受講者達は、それぞれが感じた事を話していましたが、講師によれば、「この辺は、以前海だったところですから一定方向から強い海風が吹くのでその辺りに自生している松は、皆一定の方向に倒れてしまう。だから、それに耐えられるよう一定の方向へ枝を伸ばすことで現在の姿になったのです」

についてのご相談です。生命保険会社で八年間ほど仕事をしている方です。最近の仕事の内容が自分に向いていないとのこと。しかし、お聞きしていくと同僚と人間関係の悪化もあるようでした。転職先はすでに検討している様子で、知人が輸入業者を手伝いをしようと検討されているそうです。周易で占断した結果、転職先として検討しているところは「人を雇って給料を支払えるまでの資本力が未だ備わっていない」「八年間継続した仕事を離れてまでする仕事量ではない」「旨をお話し、転職はせずに現状維持をご提案しました。しかし、相談者の女性は納得できない様子があったため、気学の吉方祐氣取りもご提案しました。東の開運方位と共に、神社でのご紹介。その方は千葉の猿田神社へお参りをされました。お水取りの作法は、福田有宵先生からご指南をいただいた通り、祝詞を奏上しながらお水をいただく作法です。それから半年後、相談者の

女性が再度お見えになり、辞めずに続けた保険会社の仕事で、リーダー職になったとのこと報告をいただきました。しかし、それでも相談者はまだ自信がないとのこと。「貴方ご自身のやり方で仕事を進める」「周りの悪口に耳を傾けず自信をもってやる」ことをお話しし、更にその時点での吉方位を調べ、引き続き吉法の祐氣取りをしていただくようご提案しました。更に半年後の報告では、その仕事でトレーナー職（人材育成職）になられたとのこと報告をいただきました。そこで、今後の対処の仕方については周易で掛を出し、先輩や上司の支援が必要である状況とご説明。ただ、相談者の先輩に関しては、苦手を感じている相手とのことでしたので、お願いの仕方として「先輩の様にしたい」「応援をしてほしい」といった言葉で支援を求めるようご提案し、仕事上で実践していただきました。その結果、会社の先輩は、快く推薦を引き受けてくださったそう、見事にトレーナー職に就くことになった

たそうです。開運吉方位の結果の確認にもなり、とても嬉しいご報告でした。相談者から今後の展開についての相談もあったため、次のように周易で掛を取りました。

①占的「トレーナー（人材育成職）」の仕事が上手くできるか」

風天小蓄 上九

風天小蓄 初九

③占的「トレーナー職の将来性はあるか」

風天小蓄 九五

結果、この相談者の仕事上に関する得掛は、全て風天小蓄の掛となり、それぞれ占的はその爻で判断する結果を得ました。

〆 福田有宵先生のコメント



それぞれの占的に対して全て風天小蓄が示されたという事は、この問題

に関しては、どれも小蓄の考え方を軸に判断すればよいと告げています。風天小蓄の掛は、まだ努力が必要であり、育てる、養う、また、目的に対して上積みをしていく意味があります。どのように育てていけばよいかは、

内卦の乾を育てる必要があります。外卦の巽は女性であり、なかなかの実力者でもあります。掛の意味を捉えますと、先々には成功を収めるであろうという判断もできます。では、どれ位の期間を考えると、どれ位かですが、今回の場合は、最短でも三か月は相談者の育成期間（内卦の乾）となるでしょう。そして、半年後から力を出していくという動き方です。その後も半年単位で成長をしていく見込みと判断していきます。また、どれくらいの人数を指導することになるかについては、掛の中の陽爻の数から考えます。特に、内卦の乾は、能力を秘めた、見込みがある者と考え、指導する内の三名、或いはその倍数の六名位で、優秀な候補がいると予想します。なお、数においては、詳細な答

えを出せない事も多いので、その場合は概算で陽爻の数から五、六名を有力者の人数として判断していけばよいのです。

次に、占的②の上司との関係性については、風天小蓄 初九ですから、新しく来る上司も業務の内容をよく知らない人が来るでしょう。そこで上司は、部下を育てよう、或いはスタートから積み上げよう、という考えを持っています。共に初心の気持ちでやっていく事が出来るので関係性は良好といえるでしょう。最後に、占的③の相談者の将来性に関しては、五か月、五年、一五年など、五の単位で成長すると判断します。風天小蓄や山天大畜の掛は、長く続ける、長く続けたいという意味がありますので、相談者は仕事を長く続けたいという考えを持つている事がわかります。何故、五の単位であるかは、五爻の意味を捉えたからです。相談者は、五年から一五年の間に活躍の場がありますので、永続出来るように努める必要があります。小蓄ですから、給料もよ

いので継続が出来るでしょう。

国境を越えてきた縁ーメキシコからやってきた犬  
（動物に表れた画相と命を預かる者の覚悟とは）

福田有俊先生



息子は、大学を卒業してすぐの二〇一七年五月十一日、語学留学のために渡航しました。渡航先のメキシコは、息子が小学生の時に住まいの市と姉妹都市になっているトルーカという場所に十日間ほどホームステイをした経験のある国で、スペイン語と英語の両方のことばを学ぶ事ができます。当時縁があったホストファミリーには連絡をしていませんでしたが、何と渡航の一週間前に突然ホストファミリーの方から連絡が入ったのです。本当に久しぶりででした。メキシコの治安は決して安心が出来ない状況ではないの

ですが、このご縁が後押しになり、渡航先では友人にも恵まれ楽しく過ごす事が出来たようです。そんなある日、一匹の小さな犬（雄）と出会います。メキシコは日本と違い、野良犬が多くいるのですが、生まれたばかりの犬を育てることになりました。メキシコでの生活中、犬を警察犬学校に入れて育てる事もしていました。学校の方からは、ドーベルマン系の雑種の犬種であろうと聞いていました。その後、帰国の際にその犬を連れて帰る事になるのですが、海外から犬を連れて帰国する大変さについて、その当時はまだよくわかっていませんでした。福田有宵先生にもご相談していただいたので、犬の写真を通じて鑑定をしていただきました。福田先生からは「犬の写真に特徴的な画相が複数みられる」とご教示をいただきました（講演時、会場にて犬の写真や写真を皆様に回覧。実際に画相の様子を見ていただきました。紙面上では写真の掲載を割愛します）。画相には、「オラウータン」「野生のネズミ」

「別の犬」など、他の動物も一緒にいるかのような画相が写真の中に表れていたのです。確かにその犬は、特にバナナを好物としていましたので、画相に表れている動物と何らかの因果関係があるのではないかと感じました。メキシコで生まれた犬は、一年目にワクチンを打ち、その後二年目から受けたワクチンの後から抗体検査を経て出国が出来る様になります。日数ですと、抗体検査は、二度目のワクチンを受けてから一八〇日後です。メキシコには検査機関がないため、アメリカで検査をする事になります。検査期間には約三か月かかり、費用は五万円程になりました。書類上、抗体がなければ出国出来ない条件があったため、検査期間中は不安でした。検査の結果、出国の許可は下りました。が、メキシコの獣医が作成した書類にミスがあり、日本での動物検疫の段階でストップとなりました。日本は、世界の中でも犬の検疫検査の合格ラインがとても厳しいのです。検疫検査では更に十日間を必要とし、五万円の追

加経費が発生しました。メキシコの獣医が作成した書類のミスですが、費用は飼い主側負担になります。また、犬がメキシコから飛行機で日本へ来る際の費用も五万円が必要で、トータルで相当額の費用が発生しました。やっとの思いで日本に辿りついた犬ですが、その後、別の問題を抱える事になります。犬がやってきて一週間の間に、家族が次々と犬に噛まれる事態が発生します。小さかった犬も体重が二十八キロになるまで成長し、体もどんどん大きくなっていきます。自分も含め、家族があまりにも犬に噛まれる状況が続き、最悪の事態も覚悟をせざるを得ない気持ちへと追い込まれていきました。大型犬が他人に噛みつく等のトラブルが起きれば、刑事事件になる恐れがあります。犬との生活をどうするか悩んでいる間は、かかりつけの獣医、福田有宵先生や佐藤宗弦先生、杉本侑穂先に相談をしながら、飼い主としての責任をどうすべきかを確かめていました。以前、有宵会の前事務局長であった伊藤

璃香先生から「あなたに解決できる問題しか来ない」という言葉をもらい、いつも思い出しながら日々を過ごしてきました。また、杉本先生は、信貴山の在家尼僧でもありますので、犬が鎮まるよう何度かお祓いをお願いし、現時点で思いついた事や出来る事は全てやってみました。すると、不思議にも犬に気持ちが通じたのか、強く噛みついていない犬が落ち着きを見せ、飼い主の言う言葉に耳を傾けるようになったのです。人間でもお正月や運氣を上げたい、悪いものを取り除きたいと感じた時には、社寺霊場でお祓いをしてもらう方も多い昨今です。自身の体験から、お祓いは、人間と同様に動物にも効果をもたらすのだと思える、不思議な体験をいたしました。佐藤宗弦先生のコメント

さえ、祖国を離れて寂しい思いをしているのかもかもしれません。ぜひこれからも、犬が日本を堪能できるよう、可愛がつて育てて貰えたらと願っております。福田有宵先生のコメント

最近では、犬もわが子として扱われている方は多いですね。一日置きに動物病院に連れて看病をされている方もおられます。相談の中には、犬が餌を食べないからどうすればよいか、といった内容など、ペットに関する相談は多くなりました。ただ、筮者の中には、動物に関する問題に易を立てる行為に批判的な意見もあります。皆様はどのようなお考えでしょうか。人の世は実に様々です。柔軟な考えでなければ、多様性への対応は難しい世の中です。動物の問題に関して、人間と同じように考える視点が今後必要になるでしょう。

### 手相・気学による開運へのご提案

岩崎杏泉先生

おります。お店には、東京駅という場所柄、同窓会などで地方から来られた方や仕事帰りの方など様々な方が来店されます。主に九星気学での鑑定が多いのですが、最近印象に残った占例についてご紹介いたします。



ある十月のこと。手相での鑑定を希望された方です。投資セミナーを受講するため、熊本から上京なさったとのこと。昭和四十八年四月三日生（四十七歳）

本命星…九紫火星  
月命星…四録木星  
傾斜宮…坎宮傾斜

ご相談内容は、金運に関してで「お金がないのでどうすればよいか」とのお悩みでした。しかし、「仕事はしたくない」「何もやりたくない」の問答を繰り返す状況でした。上京した理由から鑑みると、ネット等を利用した株式売買などの投資関連で収入を得ていると

思われました。そこで、これまで働いた経験があるかをお尋ねしたところ、二十代から三十代までは新潟や静岡などで製造関連の仕事で働いていたそうですが、三十代後半から現在までは、職に就いていないとのことでした。話題を変えて、「神社へのお参りやお墓参りなどをされたことはありますか」とお聞きしてみると「全くない」との回答でしたが、小さい頃に両親が離婚し、父親に引き取られて暮らしてきた事。その後お父様は再婚され、相談者は一人暮らしをしている等、ご自身についてお話しくださいました。場も和んだところで、手相による鑑定に入りました。特徴的だったのは、手指に走る静脈が青い筋となつて四指の末節まで透けて見えるほど、青色が強く出ている相でした。生命線に小さい島もありました。この様な相は、腸の状態がよくない、例えば、便秘やそうでない場合でも、宿便を多く抱えている場合などがあります。或いは、循環器系の問題も懸念されました。相談者は、その様な問題

症状はない、とのことでしたが、これから先の状態を示している場合もあるため、胃腸関係はよくない傾向があるため、体調管理には気を付けるようお伝えしました。すると、「確かに、胃腸はよくない傾向がある」とのこと。体の弱い部分を補っていくため、また、運や体調を鍛えるためには、体を動かしていくことが必要であることをご提案しました。また、運をよくする行動として、自分のためだけでなく、ボランティア活動や家族への奉仕など、他者を益する行動の積み重ねが、結局は自分の運氣を上げる事に繋がる事もお話いたしました。次に、年運の鑑定には、九星気学を用いて、本命星の九紫・乾宮同会の運氣から、

- ・今年は本来運勢がよいとされる年回りである
- ・神社仏閣へのお参りや目上の人との関わりに縁がある年
- ・ウォーキングなどで少しでも体を動かす事から始めてみる

等をご説明しました。ご相談者は、「実は、神社には興味があったので行っ

てみたい。お参りの作法も教えてほしい」と、賛同してくださったので、神社でのお参りのお作法をご説明して鑑定を終えました。占いを通じて様々な方のご相談をお聞きしています。ご相談者が向上心をもつて進まれる様子を見る度に、誰かのお役に立てているという実感がわくと共に、自分も救われているのだという思いをいつも感じている日々です。

## 「福田有宵先生のコメント」

岩崎先生は、手相と気学を得意として研究をしておられます。得意分野がある事は大変よいことであり、一芸に秀でる道筋に繋がります。ぜひ今後一芸に秀でるよう、得意技を磨いて頂きたいと思ひます。

## 「令和元年を振り返って」

### 福田有宵先生

いよいよ今年最後の研究会となりました。年も終盤になりますと「いよいよ年の瀬ですね」「一年も早いもので」という言葉聞くようになります。

しかし、若い世代の方からはその様な言葉は聞かないものです。まだまだ先にやりたいこと、やるべき事がある時は、前を向いていますので、その様な言葉は出ないのです。つまり、年の瀬を感じることは、後ろばかりをみており、結果、年をとる（老化）事を通じてしまいます。一年の振り返りにあたり、なるべく前を向いていきたいと思うこの頃です。有宵会においては、「有宵会だより」が今回で九十六号を迎えました。

いつも佐藤宗暁先生には、有宵会直前に原稿を印刷していただくなどご尽力を頂いている次第です。さて、人は足跡を残しながら日々を歩んでいます。振り返りとは通常度の単位で行うでしょうか。一か月、半年、一年、五年、十年の単位がありますが、一番大切な事は、現在がどうかです。過去があり現在がある。そして未来に続きます。易学では、一年の始まりは冬至からとされています。東洋の占法の場合は、立春からスタートになります。

す。しかし、常に時間には繋がっており、一年ごとに切れるものではありません。振り返りは、問題解決に向けた次の手段へ打ち手を考える事です。気を付ける事、改善すべき点が洗い出される訳です。例えば、一年の振り返りは、歴史から考える方法に位置付け出来ます。気学では、気の流れを研究する際、時間との関係を重要視しています。歴史が古い易学でも振り返りは常に行われており、八掛にはその象意が気学と共通している点として研究がなされています。本日は、気学を中心にした振り返りをしたいと思います。十二支は子年から亥年で一巡します。来年は子年になりますので、来年から新しい一巡が始まります。



ところで、一年の初めには、新春の特売セールなどがありますが、値打

のある物やお買い得のもの、素早いタイミングでどんどん出されていき、そうでないものは後から徐々に出ていきます。セールのだけでなく、様々な事象も同じことが言えます。十二支は、常に固定されていますが、九星は、人の世の姿であり、変化の様子を表します。本年は八白土星が中宮です。中心にある星が八方位に影響を与えます。通常は五黄土星が中心ですので、五黄の位置にも着目します。今年の五黄には暗剣殺が付いています。時代劇で「暗闇の剣」という言葉が聞きますが、江戸時代から暗剣殺は危ないもの、暗闇の危険性、気を付けるべきものとして認知されていきました。暗剣殺という名前の由来は、剣が五行の金星象意である事から、曆上の金神様の由来が関係します。つまり、光がある時は進むのですが、暗剣殺では、暗い時で見通しが立たない。じっと待つ意味となります。では、光がある宮はどこかと言えば、巽の東南方位になります。そして今年は東南の巳の

位置に歳破が付きます。歳破では、人間関係で破れがつく、破談になるといったトラブルが注意点となります。「吉凶は糾える縄のごとし」といいますが、吉と凶は常にセットで考える必要があります。令和元年では、八白土星中宮の年にあたり、変革の年と名付けてよいのです。変革として何を変えたか、何が砕かれたかを振り返ります。八白の御代では、或るものの価値を捨て、新しい価値を構築していく時にあたります。遁甲の図式から行けば、来年は七赤金星が中宮となりますが、七赤の時では事象のまとまりは期待できません。令和元年の変革の見通しの結果は、「再来年の六白中宮の時まで待たれる事になります。六白中宮の次にチェックするタイミングは、八白中宮から四年後となる四録中宮年です。つまり、八白で変革した結果は、六白中宮年、四録中宮年のタイミングでその結果が表れてくる」とみて予測していきます。八白中宮では、艮宮に二黒土星が回座しますので、

変革は、二黒の象意から、旧態のもの、古いものを変えていく事になります。倫理、道徳などでも、古い考え方が変わろうとして行くと予測します。古い時代から新しい時代へと変わろうとする姿です。次に、今年に起きた事象を振り返ります。最近では、十月末に世界遺産の首里城が火災で焼失する災難がありました。この様な大きな事件が予測出来なかったという反省の念もあります。今年は、火や遺跡の象意が乾宮に同会しました。だからといって、同会象意に必ず火災が起きるとは言い切れません。今後に生かすためには、過去の事例を積み上げ、今後の予測に活かしていく他に道はありません。では、今年の年盤（図一）と、気学の定位盤（図二）を易の八掛に置き換えながら事象をみていきます。なお、

気学の定位盤の中宮は、五黄土星になります。五行の観点から五黄を八掛にした際は、艮（八白）、または坤（二黒）の象があるとして配置します。なお、気学の傾斜観法で

位置に歳破が付きます。歳破では、人間関係で破れがつく、破談になるといったトラブルが注意点となります。「吉凶は糾える縄のごとし」といいますが、吉と凶は常にセットで考える必要があります。令和元年では、八白土星中宮の年にあたり、変革の年と名付けてよいのです。変革として何を変えたか、何が砕かれたかを振り返ります。八白の御代では、或るものの価値を捨て、新しい価値を構築していく時にあたります。遁甲の図式から行けば、来年は七赤金星が中宮となりますが、七赤の時では事象のまとまりは期待できません。令和元年の変革の見通しの結果は、「再来年の六白中宮の時まで待たれる事になります。六白中宮の次にチェックするタイミングは、八白中宮から四年後となる四録中宮年です。つまり、八白で変革した結果は、六白中宮年、四録中宮年のタイミングでその結果が表れてくる」とみて予測していきます。八白中宮では、艮宮に二黒土星が回座しますので、

は、中宮に乾（六白）、兌（七赤）の象意を配置する事があります。

次に、水害についてです。今年は、水害による被害も多く、各地で堤防が決壊する災害が発生しました。堤防は七赤の象意に入ります。堤防に決壊が起きたという事象は、年盤の七赤歳破の影響を見逃せません。災害を予測する際のポイントにしたところ。水に關する問題は、年盤の兌宮と定位盤の兌宮を重ねてみた時に、水沢節、沢水困の卦を含みます。水沢節であれば、堤防が決壊する意には取りませんが、ある事情の展開によって、沢水困の象意によって決壊の意味が出てきます。通常、兌の象意では、平和を愛する、楽しみ、悦び、道楽などの意味がありますが、その反面、決壊の意味も含んでいます。つまり、どの象意にとっても吉凶を共に含んでいる事がわかります。中宮の八白にしても、山であり堤防の象意があります。例えば、今年に災害を見込むと断言出来たとしたならば、中宮の八白と被

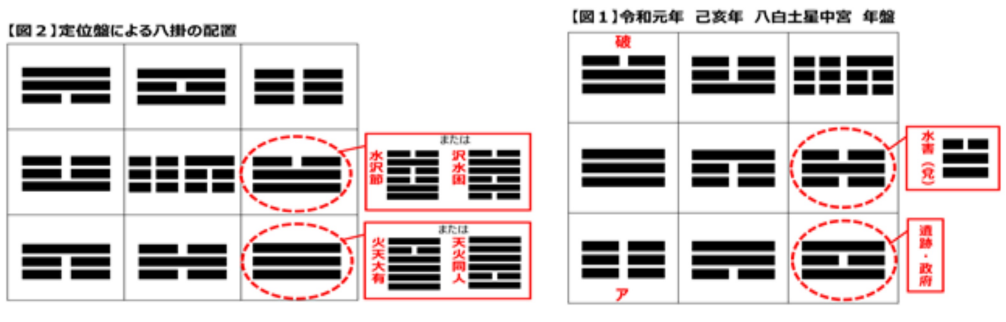
同会の二黒の暗剣殺から、堤防に破れありと予測し、警笛を鳴らせたかもしれない。火の象意に關しても、定位盤の乾宮に同会している事から、火天大有として判断し、公のもの、価値が高いもの、高層ビルなどの象意に關して、火が重なるという判断ができたでしょう。八白にも高層ビルの象意があります。乾にも同様の意味があります。話は変わりますが、今年の七赤金星の方は、巽宮に同会しているので本来はよい運勢が筈です。しかし、ろくな目に合っていない方も多く見受けられます。八白中宮で伸びた人と、そうでない人。また、変化して世に出た人、引きこもり等で閉じ込められた人など、二極化傾向があるのです。うまく芽が出ない人は、その先の手段がない場合が殆どです。では、その手段はどのように得ればよいか。杉本侑穂先生の占例にもありました。打ち手が無い時に、祐氣取りを提案する。吉方位による効果への期待もありますが、ご本人が前に出

る意欲を出すきっかけを作る。実際に行動してもいい、自分を取り巻く気を変えていく。これが吉方取りの第一歩です。代理で誰かに吉方位に行ってもらおうという方法は、消極的です。また、今年の二黒土星の人は、艮宮に同会して暗剣殺が付きました。艮宮は親類縁者、家庭または絆を深めるところですが、暗剣殺から絆の破れも半分は含みます。そのような事象に遇いつつ、乗り越えながら我道を進んで行きます。しかし、曆上の運氣とは裏腹に、二黒の人は必ずしも不運に見舞われた方ばかりではない筈です。不運とは、運氣の流れに素直でない場合に起こります。来年の二黒の方は、離宮へ同会した時には、努力した結果による楽しみがある筈です。なお、離宮の破れに關しては、篩（ふるい）とみればよいのです。篩にかけられた後に残るもの。例えば、二回目にあたる事象を得られると考えれば良いでしょう。三碧の人は、今年離宮に同会した年でした。運としては、輝かし

い運勢とみますが、始めたものが四年目にこの位置にあるかをみていきま。また、物事の始末をつけるところも離宮になります。次に、四録の人は、坎宮同会でしたが、曆通りに不運の連続だけではなかったと思います。下働きの年回りではありましたが、先に伸びていくために必要な事をする時でした。マイナス面ばかりに照準を合わせるのではなく、プラス面は何かで判断する必要があります。遁甲では、五黄始まりのものと一白始まりでみる方法があります。天皇陛下は、四録木星の年回りに御生まれです。今年、八白土星の不安定な要素を含む変革でありながら、坎宮象意の御誠実さをもって御公務に臨まれる旨をお示しになられました。御変革の結果を見る時期は、令和元年からみて四年後の中宮に同会した年と予測します。次に五黄土星の人ですが、これまで低迷の時期であったところ、坤宮に同会し、光へ一歩近づいた状況でした。また、種をまく時期でもありま

した。身近な事では、家の中の問題、親子関係などで頭を痛める事もあったと思います。坤宮では、まだ自力で事を進める力がないのです。坤宮では、誠実に行動します。六白の方に関しては、震宮に同会し、被同会が九紫です。震宮の作用により、本人に自身が出てくる、勢いがある状況であり、運に乗るところです。震宮では、条件面が合わずとも、乗っていく方針でいる事が大切です。今年の実績は来年に繋がるでしょう。運の流れをとらえるポイントは八点です。①中宮星の影響 ②同会 ③被同会 ④傾斜宮 ⑤先天定位盤による組み合わせ ⑥対冲する星との関係 ⑦その人に与えられているものがあればプラス要因として考慮 ⑧中宮星との関係

以上の点から研究を積み重ねていただきたいと思います。新年の解 新という字を知らぬ者はない。然し新という字の真の意味を解する人は案外少ない。元来この字は「辛」と「木」と「斤」との組み合わせである。辛は努力を意味し、斤は木を斬る「まさかり」、



それから「斤斤」といえば明らかに見分ける、またいつくしむ（慈愛）の意がある。

即ちよく木を愛し育て、それを努力して加工し、新し新たなものにして活用するということを表わすものである。

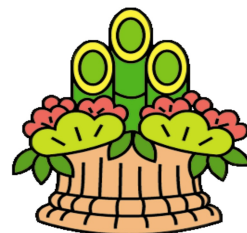
こんな深い正しい意味を知らないで「あたらしがりや」など、目先の変わった、物珍しいということに軽々しく解するのは、とんでもないことである。

本当に新しくするのは大した用意と努力を要するわけで、新人などさらにあるものではない。年の初めに勉強せねばならぬことは、まずもって自己をどう維新するかということである。

### 活学のすすめ

学問というものは現実から遊離したものはダメであって、どうしても自分の身につけて、足が地を離れないように、その学問、思想を以って自分の性格を作り、これを自分の環境におよぼして行くという実践性がなければ活学ではない。われわれは今後本当に人間作り、

家庭を作り、社会を作る上に役立つ生命のある思想学問を興し、これを政治経済百般に適用して行かなければならない。いわゆる実学、活学をやらなければならない。



### 自己鍛錬の妙薬

人間はどんなことが起こっても、自由自在に対応できる対応力を不断に養わなければいけない。それには絶えず自力を養成しなければならぬ、薬の力とか、医者の方とか、他物に依存しておつては段々に自力が弱くなりま

### 自己鍛錬の妙薬 ②

身体ばかりではない。生理ばかりではない。精神、心理という意味における生理、命理も全てそうです。

そんなことから、病弱とか、愚鈍であるとか、貧乏であるとか、多忙であるとかいうことは、逆に自分自身を鍛錬する非常な妙薬、否、妙薬以上の物であります。

### NPO通信

賛助会費として次の方々からご寄付を頂戴いたしました。厚く御礼申し上げます。

（敬称略・順不同）  
牧野有峰・市川裕梨・高田玲照

### 行事・活動報告

●十二月一日（日）江東区砂町文化センター「ウィンターフェスティバル」無料鑑定会開催。

二六八名のお客様にご来場をいただきました。出演者 十五名（敬称略・順不同）佐藤宗暁・久保

田恵都予・白土愛眞・泰山林翰・金原玄周・岩崎杏泉・久保田千恵・神崎ひとみ・須田三男・手塚唯次・アルtail・ナスル（日本占術協会）・川

又早苗・多田圭月子・凛百花・八川林加

●十二月三十一日（火）

十二月三十一日（火）

（水）品川プリンスホテ

ル新春イベント「新春占い会」に参加。

出演者 九名（敬称略・順不同）

福田有宵・横小路紬華・美園環希・濱野延珠・半田晴詠・前田龍徳・佐藤宗暁・久保田恵都予・河

野有泉・

●一月一日（水）三日

（金）岩月大師（弥勒蜜寺）様にて、恒例の新年鑑定会を開催。

出演者 六名（敬称略・順不同）

佐藤宗暁・武田ミコ・杉本侑穂・川又早苗・前田龍徳・吉祥水茄

◆次回・行事予定

◎有宵会・新春初参り

令和二年二月十八日（火）

検見川神社様（千葉市花見川区検見川町一―）

ご希望の方は、〆切日までに

費と共に事務局までお申し込みください（お申込書は、各教室または福田有宵先生より配布しております）。

申込〆切：二月十日（月）

参加費…ご祈祷初穂料

三千円／昼食二千円（い

ずれも、〆切日までの事前予約者のみ）。

集合時間…十時三十分現

地集合（時間厳守）

なお、お申し込み後、〆切日を過ぎたキャンセルについては、実費をご負担いただきますので予めご了承ください。

◎三月八日（日）江東区総合区民センター「らん・かん祭り」無料鑑定会

場所…東京都江東区大島

四―五―一 JR総武線

「亀戸」駅 北口より徒歩

十五分／都営地下鉄新

宿線「西大島」駅 A4出

口より徒歩一分

◎三月二十八日（土）J

R松戸駅前「みらいフェ

スタ二〇二〇」無料鑑定会

※有宵会例会と同日ですが、鑑定会に参加いただける先生を募集しております。ご参加いただける方は、佐藤宗暁先生または事務局までご連絡ください。



### 【事務局だより】

#### 次回の定期例会

日時／令和二年 三月二十八日（土）午後一時十五分より（終了後懇親会予定）

場所／足立区勤労福祉会館ブルミエ 第二洋室

講演／福田有宵先生他

■十一月度（前回）総会参加者

六十五名の方がご参加されました。

■例会ご欠席者への「有宵会だより」送付時期について

有宵会例会後、次月の節変わり前後にお届けできるように努力をしておりますが、到着が前後する場合がございます。予めご了承ください。

■（再掲）有宵会の「L.A.T.（ツイッター）」を開設しました。不定期ですが、有宵会主催のイベント情報等の発信をして参ります。公式ホームページ共々、よろしく願い

いたします。

事務局長 八川林加